

ロシナンテスの理念

「目の前の困っている人と共に歩み続けます」

目の前の困っている人に手を差し伸べましょう。自分で立ち上がるのでできなかった人も、自分の足で立つことになるでしょう。そして、共に助け合いながら、歩いていくことを目指します。手を差し伸べた人も、頑張っただけで自分の足で立つことが出来た人も、立派なロシナンテです。共に歩いていく姿がロシナンテスとなります。

「家族の絆と地域の和を大事にします」

スーダンでは、家族が助け合って生活をしています。子供たちは家の中のお手伝いをし、介護の必要なお年寄りや家族が代わる代わる面倒を見ています。社会インフラの整っていないスーダンでは、地域の和で助け合っています。震災直後の東北でも、家族や地域の助け合う姿には、日本の原点を見た気持ちです。現代の日本が見習うべきところが多くあります。

「世界と日本の子どもたちの明日の笑顔のために活動します」

人々はどうしても近視眼的になりがちですが、次の世代がどうなっているのかを考える必要があります。震災直後の避難所で生きる励みの一つとなったのが、子どもたちの笑顔でした。また、別々の国となった南北スーダンの子どもたちの笑顔が、両国の絆となる可能性もあります。次の世代の子どもたちの笑顔につながるように、今をどう生きるかが、とても大事です。

この三つを活動理念とし、この言葉を常に心に、今後も活動を続けて参ります。

ロシナンテスの哲学

ひとはみんなの為に
みんなはひとりの為に

写真/内藤順司



NPO法人ロシナンテス日本事務局
〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7F
TEL:093-521-6470 FAX:093-521-6471 ✉info@rocinantes.org

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドン・キホーテ」に出てくるドン・キホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ!」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。今後もこれを信念として一歩一歩参りませぬ。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。



認定NPO・国際NGO

ロシナンテス

2015.4-2016.3

写真/内藤順司

支援は、次のステップへ。
日本とスーダンとの新しい関係が、
はじまります。



みなさまのおかげで、これまでの歩みが道になり、
新たな分岐点に到達しています。

いつもロシナンテスをご支援下さり、誠にありがとうございます。おかげさまで、当団体は設立から10期目を無事に終えることができました。

新年度もアフリカ・スーダンの僻地で、巡回診療を通して、新しい価値のある「医」を追い求めていきたいと思えます。「医」とは、いわゆる医療のみでなく、水衛生環境や教育などの幅広い分野の底上げがあって、地域医療が成立することを意味しています。そして地域住民の方々が自分たちのこととして健康を率先して考え実行していく、新しい住民参加型の「医」を目指していきます。2015年度中に開始した「土とレンガの診療所プロジェクト」も、診療所を作るのみではなく、地域住民、地域行政とともに「医」を実践していきます。

2011年にスーダンから南スーダンが分離独立し、国際協力の分野でスーダン人強化政策(スーダナイゼーション)が進められています。地域住民への医療活動は、可能な限りスーダン人に任せ、外国人はスーダン人の技術者育成に重きを置くというのがこの政策の骨子です。2016年度はこれに則り、スーダンの医療専門家育成を行うとともに、地域医療の課題を、日本の専門家を交えて、双方が知恵を出して解決できる「場」を作って参ります。また課題が何であり、どう解決していくのか、あるいは解決できなくて失敗していく

のかをも日本の皆様に報告をしていきたいと思っています。

東日本大震災後の活動を2016年3月末で終えました。東北事業を支えてくださった方々、心より感謝を申し上げます。その後、2016年4月に熊本地震が発生しました。ロシナンテスは、熊本県阿蘇市から支援要請を受けて、岩手県の「NPO法人遠野まごころネット」と協働して支援活動を行いました。東北のように事務所を構えての活動にはなりません。阿蘇市などの熊本の復興のお手伝いをさせていただきます。

2013年度、14年度と2期連続で赤字でしたが、おかげさまで15年度は黒字となりました。新しい価値ある「医」を目指すためには、この不安定な経営を改善する必要があります。そのために当団体の現状を分析し、戦略を構築しなくてはなりません。そこで、皆様方にはご迷惑をおかけしましたが、アンケート調査を実施いたしました。アンケートに協力してくださった方々、ありがとうございました。大変多くのご意見が寄せられ、それを基にロシナンテスの組織の強化をして参りたいと思えます。

日本とアフリカ・スーダンとの協力体制が築けられれば、これまでにない新しい価値ができるものと信じています。その過程を皆さまと一緒にできれば幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ロシナンテス理事長・医師

川原尚行



病気にさせない。 それも巡回診療の役目



Sudan

巡回診療とは

巡回診療車で砂漠の村々を回り、一般診察や母子健診、予防接種、栄養指導などをすすめています。当初から力をいれてきた母子保健活動も継続中です。またスーダン保健省と協同で病気予防の情報を伝えるイベントを開催しています。

待っている住民は2万人。 彼らの笑顔が見たくて、 日々、砂漠を奔走しています。

巡回診療では、毎月、2週間かけて29の村々を回っています。医療スタッフは、9名(リーダー、メディカルアシスタント、検査技師、助産師、栄養士2名、ワクチン接種担当、医療統計担当、運転手)。全員が1台の車に乗り、医療機材を詰め込んだトレーラーを牽引して、砂漠を走り抜けています。活動の中心は、病気にならないようする予防医療の推進です。そのため、地域住民への健康教育やワクチン接種、妊産婦健診、乳幼児健診に取り組んでいます。なかにはワクチン接種を拒否する住民もいるので、医療スタッフが個別に説明をして、理解につなげています。

医療サービスの提供数は、月に平均して、1,686件。出産数は55件、妊産婦健診は350件、ワクチン接種は377件、乳幼児健診は793件となっています。

また、医療スタッフの専門技術向上をめざして、北海道大学から助産師を招聘し、技術指導をおこないました。巡回診療は月に1度しか受けられないために、緊急時には医療機関まで患者を搬送する必要があります。そのために必要な地域医療担当者を各村で選定し、緊急時の連絡体制を準備しました。



北海道大学医学部の藤田先生がスーダンに来てくださいました。現地スタッフの志気も上がります



巡回診療でのポリオワクチンの接種。若い母親が大事そうに乳児を抱え、月に1度の診察を待っています



巡回診療車の脇では、乳幼児の身体測定をおこなっています。順調な成長ぶりに、母親から笑顔がこぼれます

- 対象地域/ハルツーム州ウッドアップサーレ区内の29村、約2万人の住民を対象
- 医療サービスの提供/1,686、出産数:55、妊産婦健診:350、ワクチン接種:377、乳幼児健診:793(全て月平均)
- 健康教育キャンペーン2回/参加者数227名(アルセラリア村)、457名(ウッド・シュウエイ村+周辺地)
- 医療スタッフの研修/9名の研修
- 各村のヘルスポランティア(地域医療担当者)の研修/参加者27名
- 日本人専門家(助産師)のスーダン招聘/スーダン人村落助産師40名への指導
- 巡回診療車の整備(トレーラーの設置)

今後の展望

現地医療スタッフのさらなる技術向上をめざして、助産師などの専門家を日本から招き、研修を強化していきたいと思えます。また、地域住民の協力を得て、緊急時の連絡体制を構築していく予定です。これにより、住民の不安を取り除き、住民間の連携も深まるのではないかと期待しております。

土とレンガの
診療所プロジェクト



土とレンガの診療所プロジェクトとは

巡回診療区域内の3つの無医村に診療所を建設する計画です。今年度は、最初の診療所(アルセレリア村)の建設をおこないました。

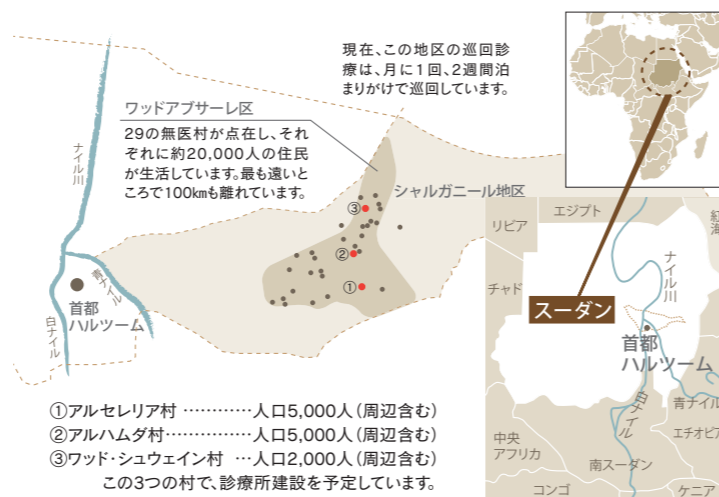
いつでも診てもらえる診療所がほしい。
みなさまからのご支援が、住民の願いを叶えました。

巡回診療をおこなっているワッドアブサーレ区の面積は、東京都とほぼ同じ。ここに29の無医村が点在し、約2万人の住民が生活しています。医療スタッフたちは、2週間をかけて砂漠つづきのこの地域を回り、活動しています。灼熱の大地での移動は、過酷を極めます。その一方で、村人から見れば、診療を受けられるチャンスは月に1度。そのため、地元住民からは、「いつでも医療を受けられる診療所が欲しい」との強い要望がありました。

それなら、診療所をつくろう。私たちは決意を固め、スーダン保健省を交えて話し合いを重ねました。その結果、地理的な事情と周辺人口を考慮して、アルセレリア村、アルハムダ村、ワッド・シュウエイ村の3村を建設予定地として設定。実現のための取り組みをはじめました。

この地域にある建築物は、スーダンの土からできるレンガでつくられます。もちろん、診療所もレンガでつくります。そこで、この事業名を「土とレンガの診療所プロジェクト」とし、その資金提供を日本のみなさまにお願いしました。

おかげさまで、第1号となるアルセレリア村の診療所は、無事に建設することができました。ご協力いただいた日本のみなさまに、心から感謝申し上げます。



スーダン人による
スーダン人のための診療所。
それが、アルセレリア村診療所です。

「土とレンガの診療所プロジェクト」基金に集まった総額は、2016年3月末で、14,270,405円。多くみなさまに、多大なご協力をいただきました。今回建設したアルセレリア村診療所の総工費は、10,000,000円。2016年3月15日に完成し、スーダン保健省への引き渡しを終えています。引き続き、アルハムダ村、ワッド・シュウエイ村の診療所建設に向けて、動きはじめる予定です。

スーダンのレンガは、土にナイル川の水を混ぜ、牛の糞を少し加えてつくります。牛の糞には草が入っていて、つなぎにするにはちょうどいいのだそうです。これを型に入れて日に干し、火をとおしてレンガにします。できあがったレンガは、一つ一つ手で積み上げられ、建物を形づくっていくのです。

診療所の建設にあたって、設計は地元の方をお願いしました。風の向きを考えて、この風土にあった設計がおこなわれました。医療機器や診療所の備品は、日本の医療機器を販売しているスーダンの業者、「ナシフ」が寄付してくださりました。診療所の周囲には、アルセレリア村の住民から寄贈された樹々が植えられ、彩りを添えています。スーダンと日本。2つの国の人々によって、アルセレリア村の住民が切望した診療所は完成しました。ここで、スーダンの人々によるスーダンの人々のための診療が、はじまります。



レンガは、製造から積み上げまで、すべて手作業でおこなわれます。土を採掘してレンガをつくり、積み上げる。地道な作業が続きました



スーダンの大地とナイル川の水は、人間にさまざまな恵みをもたらしてくれます。建築物は、雄大な自然と人間の知恵の結晶なのです



診療所ができて喜ぶアルセレリア村の人々。みなさまからのご支援が、彼らの夢の実現につながりました

土とレンガの診療所プロジェクト基金総額
(2016年3月末まで): 14,270,405円

アルセレリア村診療所

- 総工費: 10,000,000円
- 完成: 2016年3月15日
(スーダン保健省への引き渡し)
- 医療機材など: ナシフ(スーダンにある日本メーカーの医療機器代理店)から寄贈
- 植樹: アルセレリア村の住民からの寄贈

今後の展望

完成したアルセレリア村診療所と巡回診療の連携を図りながら、力強い活動を押し進めていきます。さらに2つの村(アルハムダ村、ワッド・シュウエイ村)の診療所建設に向けた資金を集め、2016年度中の着工をめざしていきます。



写真/内藤順司

水事業

清浄で安全な水を アフリカの人々のために。

主な活動

- ①アルセリア村の古井戸を改修工事するために、事業計画を策定。資金調達をすすめます。
- ②タンザニアとスーダンで、水浄化剤を使った水浄化の調査をおこないます。

① 巡回診療地域であるアルセリア村の井戸が故障したため、住民たちは隣村まで水を汲みに行っていました。新しく建設した診療所に清潔な水を供給するためにも、古井戸の改修工事は急務です。資金を提供してくれる団体が見つかったため、早速、工事の計画を立て、現在、スーダン政府に事業認可の手続きをすすめています。

② タンザニアでは、現地NGOであるTWESAと協力して水浄化施設を調査。スーダンでは、ハルツーム大学と共同で、ナイル川での水浄化の細菌学的検査をおこないました。病原性細菌は浄化剤によって沈殿し、減少はするものの完全には除去されず、最終的に塩素を添加することで安全な水となりました。また、大阪大学医学部保健学科から



タンザニアでの水浄化の様子。汚濁した川の水に浄化剤を入れていきます

白井文恵先生、大学院生の水越千沙代さんをお呼びし、調査研究をしています。

今後の展望

- ① 年度内の完成をめざして、井戸の改修と給水所の整備をすすめ、約3,000人に水を供給します。また、診療所への水の供給を開始し、住民に水の保管法などの健康教育をおこないます。
- ② 水浄化剤の調査研究に加え、浄化剤が持続的に現地で導入できるか検討します。



北コルドファン栄養改善プロジェクト

もう誰も、栄養不良で苦しめない。

主な活動

2015年1月からはじまった国連WFPとスーダンの国内NGO「SIDO」との共同事業。北コルドファン州にて、急性栄養不良の乳幼児(5歳以下)と妊婦や授乳期の母親に栄養補助支援をしています。



子どもの上腕周りを計測し、栄養状態の指標としています

「北コルドファン州、オムダム・ハージ・アハメド地域に住む子どもたちの栄養状態が悪い」。国連WFPからの報告を受けて、私たちは保健省とSIDOとともに栄養補助事業を開始しています。対象地域は、首都ハルツームから車で7時間かけて同州の州都アルオバイドに行き、さらに100キロほどオフロードを走ったところにあります。活動は、ムアックという巻尺のようなもので子どもの上腕周りを測定することからはじめます。ムアックは色で識別がされて

いて、その色で栄養状態を判断します。栄養不良と判定された子どもには栄養補助剤を渡し、経過観察で状態が改善されるまで継続します。同様に、妊婦や授乳期の母親にも判定をおこないます。2015年は年間で、健診した10,242名の乳幼児のうち2,293名が、妊産婦は925名のうち552名が、栄養補助の対象になりました。また、この事業に協力してくれる人を地域から募り、研修をして、栄養状態の測定をお願いしています。

北コルドファン州オムダム・ハージ・アハメド地域/国連WFP、SIDO(スーダン現地NGO)との共同事業

5歳以下の乳幼児健診10,242名
(2015年1月~12月) → 2,293名に栄養補助
妊産婦健診925名
(2015年1月~12月) → 552名に栄養補助

今後の展望

2016年1月から18か月にわたって、WFPとの契約延長が決定。さらに対象地域を広げて、栄養不良の子どもやお母さんへの栄養補助を続けていきます。



無東西

「無東西」は、ハルツーム大学図書館に2014年9月、設立されました。木と畳に囲まれた暖かみある和室のなか、学生たちは日本の書物を手に取り、日本文化に触れています。普段から学生たちの学習スペースとして利用されていて、掘りごたつで勉強する姿をしばしば目にします。もちろん、日本語コースの学生や日本への留学を希望する



大学図書館にある和室で、学生と川原との会議の様子

ここには東も西もない。ただ「和」があるのみ。

学生にとっては最適な環境が揃っているのので、日本語を練習する格好の場所にもなっています。また日本文化イベントを開催し、日本への理解につなげています。

大学図書館の建物内には、日本のほかにもアメリカ、イタリア、ロシア、ベネズエラなどの国が参加していて、これからも増設される予定です。そのなかで、いちばん人気ののが、日本。学生をはじめ、図書館長や大学職員も通うお気に入りの場所となっているようです。

ロシナンテスでは、スーダン政府に「無東西」事業運営を申請していましたが、残念ながら許可が下りませんでした。そのため、ロシナンテスよりハルツーム大学へ事業運営の引継ぎをおこなっています。

主な活動

ハルツーム大学図書館内に設置した日本スーダン交流館「無東西」の運営。

今後の展望

運営は、ハルツーム大学に譲渡しましたが、各文化イベントを通じて、これからは日本の紹介を続ける予定です。大学への協力は、今後も継続してまいります。



学習支援「寺子屋」

求められる限り、 子どもの居場所になる

「寺子屋」では、宮城県名取市と亶理町の仮設住宅や民間借上げ住宅に住む小中学生を対象に、学習支援をすすめてきました。開校から5年目となる2015年度には、仮設で暮らす子どもが減り、自宅を自立再建したり、災害公営住宅に転居したりした家庭が増えました。実施形態も変わり、国から直接委託を受けていたものが、名取市・亶理町からの委託となりました。学習形態は変わりなく、週5回、仮設住宅集会所で、宿題や復習を中心に学習しています。閑上では、寺子屋に通う子どもの数が激減。友だちが減り、寂しさや不安を抱きながらも、一生懸命勉強しています。亶理では、新しい家に転居し、自分の部屋ができたという子どもでも、「友だちに会えるから」と、継続して通う姿が見られます。震災で失われたコミュニティを再構築する場として、多くの子どもたちの支えになったようです。3月末には、



第11回寺子屋子ども新年会の様子(名取市箱塚校仮設住宅にて)。書き初めを手に、みんな満足そう

第5期となる寺子屋卒業式をおこない、24名が巣立ちました。第11回目となる寺子屋交流会や寺子屋課外授業も継続して実施しています。

- 【寺子屋通常授業】週5回 17時～21時
「寺子屋 閑上」3ヶ所の仮設住宅集会所にて
「寺子屋 亶理」1ヶ所の仮設住宅集会所にて
- 【行事】
- 第10回寺子屋交流会 夏山と青空のプレーパーク in 花山(7/28-29)
 - 第11回寺子屋交流会 寺子屋子ども新年会(1/11)
 - 第5期 寺子屋卒業式(3月)

今後の展望

寺子屋亶理は、寺子屋に通う子どもたち全員が仮設住宅を退去したため、ロシナンテス東北事業部の閉所とともに3月末で終了しました。寺子屋閑上は、今後は名取市の独自事業として継続できる予定です。最後の1人が仮設住宅を退去するまで、寺子屋閑上を継続していきたいと思っています。

健康農業 亶理いちご畑

農作業で、 日常を、仲間を、取り戻す。

仮設住宅に暮らす高齢者が、農作業をおこなうことで心身の健康を守り、コミュニティづくりをめざす活動です。農園までの送迎は私たちが担当。お昼には、みなさんと食卓を囲み、収穫した野菜を味わいます。

震災から5年目を迎えた亶理町では、平成27年4月に2か所の集合型災害公営住宅が完成。8月には、すべての災害公営住宅が完成し、住み慣れた仮設住宅からの移転を余儀なくされました。このころ、移転によるストレスや環境変化のせいか、体調を崩される方が増加。仮設住宅で生まれたコミュニティを失うのが辛い、という声を耳にしました。そんなときこそ、「健康農業」の出番です。「いちご



畑では、さまざまな野菜を栽培中。秋にはジャガイモが、こんなにたくさん収穫できました

畑に来ると、仮設住宅で知り合った友達に会えて安心する」と話す参加者も多く、ここが高齢者の拠り所となりました。11月には、町内3か所の災害公営住宅に移転された方と、近隣にお住まいの方との交流イベントを開催。あいにくの雨でしたが、約250人の方が参加して交流を深めました。

- 「健康農業 亶理いちご畑」 毎週月～金(8:30～13:30)
- 健康相談会(7/4)
- 地域交流芋煮会(11/14,15, 23)
- 健康相談会(2/6)
- 「健康農業忘年会」(12/18)
- 被災地交流事業「交流会」(5/9,1/7,3/11)
- その他(お花見会、芋ほり、干し柿作り) など実施

今後の展望

災害公営住宅に入居する34.6%が65歳以上の高齢者で、このうち一人暮らしが3分の1に上るという調査結果が発表されました。これまでに、高齢者の孤立や引きこもりが心配されます。5年を区切りに、「健康農業 亶理いちご畑」の活動は終了しました。今後は、亶理町内の運営グループへ引き継ぎ、これまでのように元気な高齢者が集うコミュニティとして継続していただくこととなりました。

被災地交流・研修受入事業／ボランティア受け入れ

被災地から、全国から、 生きる力をありがとう。

主な活動

全国から訪れる被災地の視察・研修者のコーディネート、およびボランティア希望者の受け入れ

高校生や大学生から、社会でご活躍のみなさま、ご年配の方々まで、本当に多くのご来訪を受けました。時間の経過とともに、被災地が求めるボランティア内容も、視察の現場も、変わっていきました。そのニーズに応えてくれたボランティアのみなさま。被災者の手を握り涙してくれたみなさま。東北事業部は役目を終えましたが、お互いの心に芽生えた友情は消えることがないと信じております。

- 【受け入れ数】
- 個人ボランティア参加者数 155名/のべ397名
 - 団体視察 4件/のべ66名

- 【主な活動内容】
- 被災沿岸部の視察や語り部の聴講
 - 「健康農業亶理いちご畑」参加者との交流活動
 - 「閑上復興だより」の発送作業ボランティア
 - ロシナンテス主催イベントのボランティア
 - その他、現地で必要とされた作業(除草作業やイベントボランティアなど)



がれき撤去作業ボランティアにはじまり、この5年間でたくさんの来訪者やボランティアを受け入れてまいりました。個人1,144名、団体713名、総勢1,857名の方々が訪れて、活動に参加し、協力してくださいました。被災した現地にとって、ボランティアが果たすのは、単に「人手」としての役割だけではなく、被災した現地にとって、ボランティア側の人々にとっても、地域住民との交流が、震災についての深い学びとなったようです。



東北事業5年間のご支援に感謝致します。

2011年3月11日の東日本大震災後、宮城県名取市、岩沼市、亶理町、山元町において支援活動を始め、地元の方々の協力を得ながら、5年にわたり活動を継続してきました。しかし、上記地域での仮設住宅で生活される方が減少していき、仮設住宅での生活をされる方々への公的支援が区切りをつけられることになり、残念ながら、2016年3月末をもって、当団体の東北事業を終了するに至りました。ここまで事業を継続できたのは、ロシナンテスを支援してくださる方々のおかげであると思っております。心から御礼を申し上げます。

発災直後の緊急医療支援(名取市関上、岩沼市玉浦地区)に始まり、避難所でのイベント(名取市)、がれき撤去(岩沼市玉浦地区、山元町)、地域新聞作り(関上復興だより)などを行い、学習支援(寺子屋関上、寺子屋亶理)、健康農業(亶理町)は2016年3月まで活動を継続しました。

それぞれの事業で出会った東北の方々、事業を支援して下さった方々との御縁を頂けたことに、心から感謝しております。震災の時に小学生だった子が今では高校生になっています。今でも、「元気です!」とメールが届きます。健康農業で知り合った亶理町の高齢者の方々は、困難にあいながらも、今を楽しく生きる姿勢、それが「生き抜く力」となっています。参加者の中には、生活の中で骨折し入院を余儀なくされても、それでも健康農業に再び戻りたい一心で、怪我を克服された方が複数いらっしゃいます。平均年齢が80歳に近い方々の集団にもかかわらずです。

この健康農業が終了することで、参加して下さった方々の健康が心配でしたが、亶理町の沿岸部に植樹をする団体であるわたりグリーンベルトプロジェクトで継続して農作業

をすることができています。この他にも継続される事業もあります。寺子屋関上は、名取市の継続事業として成されるように依頼し、2016年3月時点で市長からの快諾を得られています。また、コミュニティ新聞である関上復興だよりは、関上の方々により現在でも月8,000部の発行がなされています。

大変多くの方々にボランティアとして各種の事業に参加して頂きましたが、東北の震災後の現場を自分の目で見て、また東北の方々と実際に言葉を交わすことで、それぞれの心に刻まれるものがあつたと思います。

2011年7月には、南北スーダンの子どもたちを東北に招待し、関上の地域の方々、子どもたちと一緒に運動会が開かれました。同年7月11日に南スーダンが新しい国としてスーダンから分離独立しましたので、南北スーダンの子どもたちにとっても思い出深い東北との交流になったことでしょう。このような交流によって、東北、東北以外の地域、またスーダンや南スーダンの若い世代が成長し、新しい時代を築いてくれるものと期待しています。

東北事業を支えてきたスタッフは、大嶋一馬君は北九州の介護施設、平林由紀夫さんはわたりグリーンベルトプロジェクト、工藤博康さんは塾講師(寺子屋関上)、伊藤瑞夫さんは東北での大学職員、綾田早笑さんは宮城県で小学校の講師、岡部哲君は大阪、田地野茜さんは東京でそれぞれ頑張っています。

最後に、東北事業を支えて下さった皆様方には、重ねて御礼を申し上げます。東北で得られた貴重な体験を、今後のロシナンテスの活動の糧にしていきたいと思っております。本当にありがとうございました!

2015年度 メディア紹介一覧

新聞掲載

〈日本事務局〉日本経済新聞(4/18)コラム『肖像』内で「スーダン支援みんなでトライ」記事掲載／毎日新聞(5/12)現地活動報告会(母子保健専門家)開催の告知記事／毎日新聞(5/19)「保健医療の現状報告」現地活動報告会開催の記事／読売新聞(5/30)書籍「行くぞ!ロシナンテス」発売広告記事／毎日新聞(6/2)「医療支援の現状を出版」書籍「行くぞ!ロシナンテス」紹介記事／朝日新聞(6/9)書籍「行くぞ!ロシナンテス」山川出版社の広告枠内に掲載／西日本新聞(6/14)「医療支援の反省を記録」書籍「行くぞ!ロシナンテス」紹介記事／日刊常陽新聞(WEB版)(6/22)「まず信頼関係を」筑波大での講演取材記事／読売新聞 夕刊(7/2)健康のページ「こころ」内に書籍「行くぞ!ロシナンテス」紹介記事／毎日新聞(7/8)「日本らしい国際協力必要」出版記念講演の取材記事／日本経済新聞(7/11)「この1冊」欄内に書籍「行くぞ!ロシナンテス」発売広告記事／朝日新聞(7/18)「スーダンでの活動紹介」書籍「行くぞ!ロシナンテス」発売広告記事／毎日新聞(10/2)「卓上カレンダーを作成」2016年版カレンダー販売紹介記事／西日本新聞(12/9)「ロシナンテスカレンダーに」2016年版カレンダー販売紹介記事／毎日新聞(16/1/16)「スーダンに診療所」レンガ基金の呼びかけ記事／西日本新聞(16/1/23)「スーダンに診療所」レンガ基金の呼びかけ・キックオフイベント告知記事／西日本新聞(16/2/1)「気持ち れんがに変えて」キックオフイベント取材記事／読売新聞(16/2/1)「スーダンに診療所の建設を」キックオフイベント取材記事／神奈川新聞(16/2/3)「スーダンに診療所を」レンガ基金の呼びかけ・キックオフイベント告知記事／毎日新聞(16/2/17)「スーダンに診療所建設へ」キックオフイベント取材記事／南日本

新聞(16/2/28)コラム「南風録」で紹介記事／西日本新聞(16/3/3)「志半ば 東北支援に幕」東北活動取材記事／西日本新聞(16/3/10)「復興だより」関上の今伝え東北活動取材記事
〈東北事業部〉河北新報(16/2/17)コラム「明日へ」関上の方々のお別れ会「支援に感謝の花束」／河北新報(16/2/20)コラム「検証」寺子屋紹介「学びや もう一度笑顔に 細る教育支援」／西日本新聞(16/3/3)東北事業部活動終了について「志半ば 東北支援に幕」／西日本新聞(16/3/10)3.11特集内で「関上復興だより」の支援活動紹介／河北新報(16/3/19)健康農業事業終了について「忘れない 畑の思い出」

テレビ

〈日本事務局〉KBC(6/1)アサテス 30秒PR「書籍出版のPR」／NHK総合(7/25)SONGS さだまささん出演の中で紹介／フジテレビ(9/18)みんなのニュース「風に立つライオン基金」内で紹介／スカパー-557ch(10/28)ビジネス・ブレイクスルー／RKB(12/4)今日感テレビ「医は仁術」展の紹介内で出演／FBS(16/1/31)ニュース枠でレンガ基金キックオフイベントを紹介
〈東北事業部〉東日本放送(15/12/9)『スーパー』チャンネルみやぎ 寺子屋・健康農業 活動終了について／ミヤギテレビ(16/1/12)『Oh! パンテス がんばろう宮城』健康農業 終了について／共同通信社(16/3)東日本大震災 映像企画「岐路に立つNPO」活動終了について／ミヤギテレビ(16/3/8)『Oh! パンテス がんばろう宮城』あれから5年… 寺子屋 関上の今／仙台放送(16/3/11)東日本大震災特別企画「ともに」寺子屋亶理と健康農業 終了について／ミヤギテレビ(16/3/11)ミヤギNews every「関上復興だより」との歩み／ミヤギテレビ(16/4/5)『Oh! パンテス

ス がんばろう宮城』活動終了について

ラジオ

〈日本事務局〉FM Nack5(6/12)HYPER RADIO「書籍出版のPR」／FM福岡(6/26)モーニングジャム「書籍出版のPR」／KBC(6/29・30)Morning Wave「書籍出版のPR」／NHKラジオ第一(7/19)ちきゅうラジオ(田中香子出演)／ニッポン放送(7/25)辛坊治郎ズーム そこまで言うか!!／TBS(16/2/8)大沢悠里のゆうゆうワイド レンガ基金の呼びかけ・キックオフイベント告知／FM NACK5(2/12)おとこラジオ レンガ基金の呼びかけ／FM福岡(3/11)モーニングジャム
〈東北事業部〉FMあおぞら(15/5/4)JICAイラク・クルド視察団受入れについて／FMあおぞら(15/7/29)健康農業の活動について／FMあおぞら(15/10/28)寺子屋亶理の活動について

雑誌・広報誌

〈日本事務局〉メディカル朝日／朝日新聞出版 2016年1月号巻頭インタビュー「アフリカの大地で命を守る」／タウンニュース神奈川区版 2016年1月28日号「スーダンに診療所を」レンガ基金呼びかけ・キックオフイベント告知記事／メディカル朝日／朝日新聞出版 2016年2月号書籍「行くぞ!ロシナンテス」紹介記事／サンデー毎日 2016年7月26日号「阿木燿子の艶もたけなわ」対談／ラグビーマガジン 2015年8月号出版記念講演取材記事・書籍紹介記事／英語の教科書／三修社「スーダンなどで活躍する医師」／実験医学／羊土社 Vol.33-No.17 2015「スーダンにおけるNGOの地域医療の実践例」／致知／致知出版社 2016年1月号 支援のお願い記事
〈東北事業部〉月刊きらめきプラス vol.43 卯月「関上復興だより」

2015年度 講演会イベント実績

川原 尚行

(4/6)日本アイ・ピー・エム株式会社 (4/7)日本アイ・ピー・エム株式会社 天城会議事務局 (5/26)一般社団法人 日本エルピーガスプラント協会 (6/15)山川出版社(出版記念-東京) (6/16)粕屋町立仲原小学校 成人教育委員会 (6/18)筑波大学 医学医療系 小児外科 (6/22)小金井市立東中学校 (6/26)福岡県立新宮高等学校 (6/28)有限会社 大蔵笑(出版記念-広島) (7/4)ロシナンテス(出版記念-北九州)※小倉井筒屋さまの協力のもと開催 (7/5)北九州市立大学(まなびとESDステーション) (7/23)済生会福岡総合病院 (9/16)横浜市立大門小学校 (9/17)テルモ株式会社 (10/30)福岡県中学校長会 (11/3)富山国際大学 (11/4)小倉南区環境衛生協会連合会 (11/7)大阪うつほロータリークラブ (11/9)福岡県立北筑高等学校・同PTA人権委員会 (11/11)唐津西ロータリークラブ (11/13)RKB毎日放送@いのちのたび博物館 (11/14)北九州市立修多羅小学校 創立100周年実行委員会 (16/2/6)宮城県ラグビーフットボール協会 (16/2/20)川内内だしこライオンズクラブ(16/2/24)八女筑後看護専門学校

大嶋 一馬

(8/12)北九州市立教育センター (8/28)亀山市小中学校生徒指導協議会 (10/21)福岡県立中間高等学校 (11/18)三重県亀山市立中部中学校 (11/22)第62回 日本臨床検査医学会学術集会 (11/28)福岡教育大学附属小倉中学校 (16/1/16)学校法人 黒木学園 徳力団地幼稚園 (16/1/18)湯川小学校 (16/2/6)大分県看護協会／ニプロ(株)共催 (16/2/27)水巻町国際交流協会 (16/3/4)明治学園中学高等学校

海原 六郎

(16/3/26)新門司地域交流センター

広報イベント

(8/1・2)わっしょい百万夏まつり ブース出展 (16/1/31)「土とレンガの診療所プロジェクト」キックオフイベントin北九州 (16/2/9)「土とレンガの診療所プロジェクト」キックオフイベント・講演会in横浜 (16/2/11)「土とレンガの診療所プロジェクト」キックオフイベントin東京

組織概要・収支報告

組織概要 2016年7月現在

名称	特定非営利活動法人 ロシナンテス
代表者氏名	理事長 川原尚行
事務局所在地	〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7階 TEL.093-521-6470
設立	2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)
スタッフ数	12名 ・スーダン事業部/8名 ・日本事務局/4名

役員一覧

理事長	川原 尚行
副理事長	竹中 賢治
理事	東 晃一 安西 靄 内田 賢介 大嶋 一馬 岡留健一郎 海原 六郎 桑野 博行 柴田 文壽 島田 光生 鈴木 守 高濱 英子 武富 紹信 福地 茂雄 前原 喜彦 松股 孝 武藤 義博
監事	坂井 一郎 矢永 啓助

(五十音順)

沿革 ロシナンテス発足からのおもな活動

年	月	内容
2005	10	スーダン共和国にNGOロシナンテス立ち上げ
2006	5	北九州市にNPO法人ロシナンテス設立
	8	スーダン共和国政府に国際NGO登録 スーダン東部ガダーレフ州で巡回診療開始(～2013.6)
2007	2	ガダーレフ州ハサバツラ村で診療所開設・運営(～2013.6)
2008		女子学校建設プロジェクト始動 (在スーダン日本大使館草の根無償資金援助:2009.6開校)
2009	1	スポーツ事業開始(日本サッカー協会協力)
2010	4	母子保健事業開始(JICA草の根技術協力:～2013.3)
2011	3	東北・被災地巡回診療開始(～2011.4) 東北・被災地がれき撤去作業開始(～2012.4)
	6	東北・学習支援事業「寺子屋」開始(～2016.3)
	7	日本スーダン交流事業「天の川プロジェクト」実施
	10	被災地住民新聞「閑土復興だより」発行サポート(～2014.3)
2012	1	国税庁長官より認定を受け、認定NPOとなる
2013	1	東北・健康農業事業開始(～2016.3)
	6	ハルツーム州ウッドアップサーレ区で巡回診療開始
2014	6	医療機器・サービス国際化推進事業(調査)実施 (経済産業省より受託:～2015.2)
	9	ハルツーム大学に日本スーダン交流館「無東西」開設
2015	1	北コルドファン州で栄養改善事業開始(国連WFPと連携)
	12	「土とレンガの診療所プロジェクト」開始
2016	3	一棟目の診療所がウッドアップサーレ区アルセレリア村で竣工

活動計算書 2015年度活動計算書に関して

2015年度会計報告を申し上げます。2011年から始まった東北事業は、今年度で終了しましたが、多くの募金、寄付金を頂きました。改めて御礼を申し上げます。2012年度以降は、助成金と合わせてほぼ東北事業費が30,000千円近くで推移しましたが、毎年予算通りに事業を遂行できました。

しかし、スーダン事業を含めた経常費用増減では、昨年度、一昨年度と二期連続で減額でした。2014年度までは、スーダンでの事業を拡大路線で突き進んできて、収益のことを考えずに、事業費を右肩上がり増加させており、またスーダンの経済事情の悪化で物価高の影響もありました。世界銀行が2014年に発表したインフレ率は36.9%になっていました。そのような事情の中、二期連続の赤字で、皆様方にご心配をお掛け致しました。

2015年度は、事業内容を損なわずに収入増、支出減を心がけてきました。おかげさまで、2015年度は、経常収益122,726千円、経常費用は119,664千円で、当期経常増額300万円弱の増加、為替差益、経常外収益と合わせて7,292千円の増加となりました。

今後も、皆様方から頂いたお気持ちが十二分に生かされますように、事業計画をしっかりとして、事業費、管理費の細部にまで気を配っていく所存です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

経常収益	①会費・入会金収入	13,895,500
	②事業収益(受託事業収入:JICAほか)	44,179,776
	③助成金収入(テルモ生命科学芸術財団ほか)	1,447,982
	④寄付金収入	50,181,738
	⑤雑収入(物品販売等)	13,021,656
	経常収益計(A)	122,726,652
経常費用	海外活動費	
	①生活改善事業 (保健医療事業、水衛生事業)	50,680,882
	②交流推進事業 (人材交流事業)	9,071,643
	国内活動費	
	③救援・復興協力事業(東北)	29,184,559
	④広報活動・後方支援活動	19,302,268
	⑤事務局	11,424,793
	経常費用計(B)	119,664,145
為替差益(C)		555,749
法人税(D)		81,000
経常外収益(E)		3,755,606
当期正味財産増減額(A-B+C-D+E)		7,292,862
前期繰越正味財産額		123,251,628
次期繰越正味財産額		130,544,490

(単位:円)

ロシナンテスは皆様の継続的なご支援を求めています。

ロシナンテスの名前の由来でもある「小さな力(ロシナンテ)」がたくさん集まれば、大きな何かができる。私たちはそう信じて、歩み続けます。

継続的に寄付をする (毎月・毎年の定額寄付で長期的な活動ができます)

クレジットカード ▶ 1,000円から ▶ ロシナンテスのホームページからお手続きください。

銀行口座自動振替 ▶ 1,000円から ▶ 所定の申込用紙を送付させていただきますのでロシナンテス日本事務局までご連絡ください。

今回のみ寄付をする

クレジットカード ▶ 1,000円から ▶ ロシナンテスのホームページからお手続きください。

郵便局 恐れ入りますが、払込手数料をご負担願います ▶ 郵便局備え付けの払込取扱票をご利用いただくか、下記の口座へお払い込みください。

口座記号:01720-3 口座番号:74330 店名:一七九
加入者名:NPO法人ロシナンテス

銀行口座振込 恐れ入りますが、払込手数料をご負担願います ▶ 金融機関:三菱東京UFJ銀行 北九州支店
預金種目:普通
口座番号:0069309
口座名義:特定非営利活動法人ロシナンテス

ご注意 郵便局もしくは銀行口座へ振り込みされる方で、「寄附受領書(領収書)」をご希望の場合は必要項目を電話、FAXまたはメールでお知らせください。必要項目①振り込み日 ②振込者情報(お名前、ご住所) ③振り込み金額

ロシナンテスへのご寄付は、寄付金控除等の税の優遇措置を受けることができます。

例えば

個人で毎月1,000円クレジットカードで寄付した場合、総寄付額は、1,000円×12か月=12,000円ですが、確定申告で税額控除の適用をうけることで(12,000円-2,000円)×40%=4,000円が還付されるため、実質年間ご負担額は、8,000円(=12,000円-4,000円)となります。

※これらを受けるためにはロシナンテス発行の「寄附受領書」が必要です。

個人からのご寄付の場合

個人所得税の寄付金控除について

個人が各年において支出した認定NPO法人に対する寄付金で、その寄付額が2,000円を超える場合には、確定申告の際に所得税の寄付金控除として「税額控除」または「所得控除」のいずれかが選択適用できます。
※年間寄付額や所得税率などによって有利な選択が異なります。詳しくは税務署等にご確認ください。



寄付金額-2,000円 ▶ 寄付金控除(所得控除または税額控除)

個人住民税(地方税)の寄付金控除について

寄付者がお住まいの都道府県または市区町村が条例で指定した認定NPO法人等に寄付した場合に適用されます。
※お住まいの都道府県または市区町村にご確認ください。

法人からのご寄付の場合

一般のNPO法人等に寄付した場合の「一般損金算入限度額」とは別枠の「特別損金算入限度額」が適用されます。なお、寄付総額が「特別損金算入限度額」を超える場合には、その超える部分の金額を「一般損金算入限度額」に算入することができます。

寄付者《法人》

認定NPO法人 一般の寄付金に係る損金算入限度額 + 認定NPO法人等に対する寄付金に係る損金算入限度額